

少年消防クラブニュース

一般財団法人
発行/ **日本防火・防災協会**
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
(日本消防会館内)
TEL 03(3591)7121 FAX 03(3591)7130
http://www.n-bouka.or.jp
(季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社



「消防団120年・自治体消防65周年記念大会」が11月25日(月)東京ドームにおいて、主催・日本消防協会、全国消防長会、共催・日本防火・防災協会他で開催され、全国の少年消防クラブを代表して埼玉県三郷市の三郷市少年消防クラブ以下5つのクラブが消防実技を披露しましたので、記念大会の概要を紹介します。

消防団は明治27年の消防組規則(勅令)の制定による全国統一した姿による消防組(消防団の前身)がスタートしてから120年と、この節目を迎えた他、自治体消防制度発足から65周年を記念して、消防の発展を回顧するとともに、国民の安心・安全な生活を確保するという消防に課せられた使命の重要性を再認識し、更なる消防防災体制の充実強化を期するため記念大会が開催されました。

記念式典に先立ち、「検証 阪神淡路大震災と消防」「自ら守る! 消防団120年」のDVD映像が大型スクリーンに映し出された後、消防伝統演技が行われ、江戸時代の町火消の伝統を受け継ぐ消防演技として木遣り、纏振りやはしご乗りが披露されました。

少年消防クラブが参加 消防団120年・自治体消防65周年記念大会が 天皇皇后両陛下をお迎えして開催



第一部記念式典
天皇皇后両陛下にご臨席を賜り、消防職員・消防団員・婦人防火クラブ員など約3万7,000人が参加して式典が行われました。開会に先立ち、東日本大震災をはじめとする数々の災害・事故により殉職された消防関係者に対し1分間の黙祷を行いました。

(表) 日本防火・防災協会会長表彰を受けた優良少年消防クラブ (35団体)

| 都道府県 | 団体名 | 都道府県 | 団体名 |
|------|----------------------|------|------------------|
| 北海道 | 東月寒少年消防クラブ | 三重 | 下大久保町少年消防クラブ |
| 青森 | 福浦少年消防クラブ | 京都 | 城陽少年消防クラブ |
| 岩手 | 矢巾町少年消防クラブ | 大阪 | 泉佐野市少年消防クラブ |
| 宮城 | 気仙沼市立階上中学校少年消防クラブ | 兵庫 | 尼崎市立若草中学校少年消防クラブ |
| 福島 | 会津若松市立仁小学校少年消防クラブ | 奈良 | 生駒台少年消防クラブ |
| 茨城 | かすみがうら市立志筑小学校少年消防クラブ | 岡山 | 川入少年消防クラブ |
| 栃木 | 足利市立協和中学校少年消防クラブ | 広島 | 六区少年少女消防クラブ |
| 群馬 | 前橋市立細井小学校少年消防クラブ | 徳島 | 西須賀少年消防クラブ |
| 埼玉 | 入間市消防少年団 | 香川 | 亀阜小学校少年消防クラブ |
| 千葉 | 小金北地区少年消防クラブ | 愛媛 | 松山市立味酒小学校少年消防クラブ |
| 東京 | 金町消防少年団 | 高知 | 赤岡町少年防災クラブ |
| 神奈川 | 大和市少年消防団 | 福岡 | 大川市少年消防クラブ |
| 新潟 | 夷浜消防部少年消防隊 | 長崎 | 志佐ジュニア消防クラブ |
| 富山 | 高岡市立東五位小学校少年消防クラブ | 熊本 | 八千把小学校少年消防クラブ |
| 石川 | 二塚子ども消防クラブ | 大分 | 姫島村立姫島中学校少年消防隊 |
| 山梨 | 塩山少年消防クラブ | 宮崎 | 北郷小中学校少年消防隊 |
| 岐阜 | 坂祝中学校少年消防クラブ | 鹿児島 | 山川少年消防クラブ |
| 愛知 | 豊田市立竜神中学校少年消防クラブ | | |

沼市の階上中学校少年消防クラブに表彰状と記念品が授与されました(表参照)。その他優良幼年消防クラブ38団体、優良婦人防火クラブ47団体が表彰を受けました。

(2面に続く)



た後、消防功労者に対し内閣総理大臣表彰、総務大臣表彰、日本消防協会会長表彰、日本防火・防災協会会長表彰、全国消防長会会長表彰が行われました。

日本防火・防災協会会長表彰では、優良少年消防クラブ35団体を代表して気仙

「少年消防クラブ指導者交流会」の開催

日時：平成26年2月8日(土)、9日(日)
場所：東京グリーンパレス「ふじ」
東京都千代田区二番町2番地
対象：モデル少年消防クラブの指導者及び全国少年消防クラブ交流大会参加予定クラブ指導者
人数：120名程度
内容：クラブ活動に関する事例報告、全国少年消防クラブ交流大会意見交換等
主催：少年消防クラブ活性化推進会議

平成26年度全国少年消防クラブ交流大会開催予定

日時：平成26年8月6日(水)～8日(金)
場所：徳島県(予定)
対象：50クラブ程度とし、全国から募集予定
(1クラブ当たりの参加者は、小学校5、6年生～中学生のクラブ員5名及び指導者1～2名を予定)
内容：ヨーロッパ青少年消防オリンピックの競技種目を参考としたクラブ対抗合同訓練、防火防災施設の見学、地元消防団との交流、野外訓練等を予定
経費負担：参加クラブの本拠地(消防本部又は学校所在地)の最寄り駅から開催地駅までの往復交通費の1/2相当額、現地での滞在及び移動経費は主催者が負担する予定
その他：交流会の内容については、平成24年度の岩手県、平成25年度の徳島県で実施した交流会の状況(少年消防クラブニュース http://www.n-bouka.or.jp/club/No10、11号及びNo14号)を参考にしてください。
また、詳しくは、日本防火・防災協会までお問い合わせください。



消防未来宣言

日本消防は百年以上にわたる先人のご尽力によって発展し、今日広く信頼を得るに至っている。

私たち消防人は、自らの地域は自ら守るといふ先人の熱い思いを受け継ぎ、国民の皆さんのご理解ご協力のもと、全国一致団結し、新しい技術等も積極的に導入しながら、少年、女性を含む地域住民の皆さんとともに、より強固な未来の日本消防づくりにまい進する。

そうして社会経済の進展に伴い変化を見せるあらゆる災害事故に対処し、国民の安全を守るため、全力を尽くすことを固く誓い、ここに宣言する。



(1面から続き) 続いて、安倍晋三内閣総

理大臣より「先陣を切って災害現場に駆けつける皆さんには期待と信頼が寄せられています。政府として強靱な国造りと、防災・減災対策を進め、国民の安全を守ってまいります」とご

祝辞を述べられました。次に伊吹文明衆議院議長、山崎正昭参議院議長、竹崎博允最高裁判所長官が、それぞれのお立場からご祝辞を述べられました。閉式の辞に続き、両陛下がご退席され第一部を終了しました。

第二部 消防実技



消防団ラッパ隊演奏に続いて、菅原文太さんナレーションのもと消防実技が披露されました。

放水活動では、消防団によるおよそ1000年前の腕用ポンプからの放水、引き続きおよそ50年前のオート三輪ポンプ車、現代の消防団多機能車からの放水、そして秋田県能代市少年消防団、福島県大越中学校少年消防クラブ、神奈川県海老名市少年消防クラブ、埼玉県三郷市少年消防クラブ、高知県梶原学園



少年消防クラブ及び東京都北区及び品川区の中学生によるD級可搬ポンプでの放水を披露しました。大地震発生を想定した救助救急訓練では、常備消防(緊急消防援助隊など)による救助工作車、はしご

車、高規格救急車などを使用した高所からの救出などの活動、8輪駆動水陸両用バギー車を使った救助活動を披露。消防団による消防団多機能車、可搬ポンプ積載車などを使用した倒壊家屋などからの救出、救護などの活動。また、婦人防火クラブによる被災者への応急手当などの活動を披露しました。



消防音楽隊の演奏に続き、幼年消防クラブによる

第三部 消防の士気高揚

パフォーマンスが行われ、神奈川県川崎市平山学園幼稚園の園児が鼓笛隊によるパレード演奏、その後、埼玉県川口市川口ふたば幼稚園の園児が鼓笛隊による定点演奏とカラーガードを披露してくれました。少し緊張した面持ちの園児たちは力いっぱい演奏を披露し、その可愛らしい姿に会場からは盛大な拍手が送られました。



私達、八戸地域少年消防クラブ育成協議会は、青森県八戸市を中心として近隣6町村、22の少年消防クラブで構成しており、今年度は544名のクラブ員が火災予防をはじめとする様々な活動をしています。その中でも年間を通して最も大きなイベントである「少年消防クラブリーダー研修会」が今年度も「種差少年自然の家」において、2泊3日の日程で行われました。



副会長 小杉雅永

リーダーとしての協調性や指導力を身につけることを目的として、昭和53年から始めたこの研修会は、今回で36回を数え、今までに2、348名のクラブ員を輩出しています。研修会では、火災予防の知識を深めることは勿論のこと、集団生活をする上で、多くの厳しい生活目

119

指導者からの便り

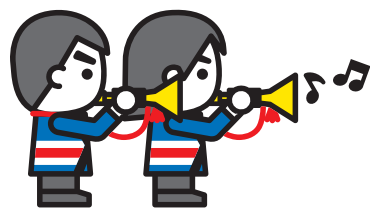
少年消防クラブリーダー研修会

青森県 八戸地域少年消防クラブ育成協議会



その他、AKB48のみなさんによるパフォーマンス

や布施明さん、水前寺清子さんによる庄巻のステージを披露してください、最後に「消防未来宣言」を採択し消防団120年・自治体消防65周年記念大会を終了しました。



標を定め、仲間と助け合いながら乗り切ろうとする姿には毎度ながら感動を覚えます。

消防署員や地域の防災協会からご支援をいただき行った消火訓練をはじめとした専門的な消防訓練では実際に体で災害に対応する行動を覚え、育成指導員やジュニアリーダーの協力を得て行った防災講話や各班で行う共同研究発表では、火災予防と防災に関する知識を学びました。

実は、この育成指導にあたってくれた中学生・高校生は、この研修会のOBです。このことは、小学生で得た防災意識を忘れずに持ち続けていくことは、長年続けていくこの研修会の意義を証明してくれているも



のだと感慨無量の思いです。

当育成協議会を構成する地域の中で、現在5つの中学生・高校生による消防クラブが結成され活動しています。小学校での活動以外による少年消防クラブは、存在自体が県内でも珍しいようです。

今回研修を終えたクラブ員も、先輩達と同じように自主防災の心を育み、更には地域の防災リーダーとなってくれることと期待するとともに、私自身、今後とも微力ながら育成指導を続けて行きたいと考えています。

夜空に響く火の用心

大分県 ムササビ少年消防クラブ 指導者 飯田正一



昭和60年10月に結成した「ムササビ少年消防クラブ」も28年を経過しました。

結成にあたって、小学校育友会(P.T.A.)の地区役員が児童に小学校時代「心に残る思い出を」また地域に貢献できる行事として「夜回り活動」を実施することとなり今日に至っています。

組織としては、小学校1年生から6年生までの児童と幼稚園児で構成しています(平成25年度は33名)。ここでムササビ少年消防クラブの名称ですが「むささび」は当佐伯市中心部に位置する城山に生息している夜行性動物で、その夜行性にちなんで夜回り活動実践部隊「ムササビ少年消防クラブ」と名付けました。



さて年間活動内容として、11月9日秋季全国火災予防運動に合わせて「夜回り活動出発式」を行っています。来賓には佐伯市長、消防長、消防署長、予防課長、小学校長、自治委員、老人会、消防団員、地区住民など多くの方が応援、激励に参加されています(約150名)。

この夜回り活動で隊員の家族はもとより地区住民が火災予防に関心を持ち、これまでこの地域での大火災は一度も発生していません。夜回り活動のほか「消防見学」「消防実務体験」新春には佐伯市消防団出初式の分列行進に参加しています。

夜回り活動は出発式の11月から翌年3月までの間、隔週金曜日午後6時30分から40分ほど町内を回っています。6年生の号令で「火の用心、ガスの点検もう一度」「火の用心、天ぷら油とタバコの火」……とハッ

ピ姿に拍子木を打ち、精一杯の声で呼び掛けています。これらの姿を見る人や付近の家々から、ご苦労さん、ありがとう、がんばってね、などの励ましの声を掛けてくれます。隊員にとって、この励ましの言葉が何よりの「ご褒美」です。この励ましの声で隊員の掛け声は一段と大きく夜空に響き渡っているようです。



また、親子二代での隊員も数名います。最後に、「児童の健全育成、心身ともにたくましく、思いやりの心を忘れない児童を」を目標に指導者、保護者が一体となって今後取り組んでいきたいと思っています。

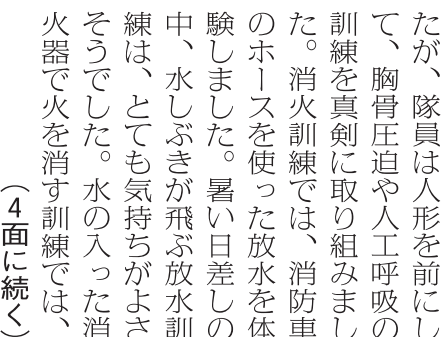
少年消防クラブの活動

坂戸地区少年消防クラブ

坂戸地区少年消防クラブ 幹事長 鈴木英雄
坂戸地区少年消防クラブが活動している坂戸市は、埼玉県のほぼ中央部に位置し、古くから交通の要衝であり、東京都心から45km圏内という利便性もあって産業の発展と都市化が進むと同時に、街の中心部を高麗川と越辺川の二つの河川が流れる豊かな自然環境が残る街でもあります。

少子化の影響もあって、現在のクラブ員は16名と少ない人数ですが、消防出初め式や防災訓練への参加、救急講習や視察研修など、年間を通して地域や家庭において防火防災意識を高めたいことを主眼とした活動を継続しています。

その中で、消防署体験入署を実施しました。内容は、119番通報、AEDを用いた心肺蘇生法、止血法、三角巾や日用品を用いた患部の固定方法、煙中通過体験、屋内消火栓の使用法など実践的なものを選び、知識と技術を習得することによって、身近に起こる各種災害に対して迅速に対応できる能力を養うことを目的としています。この体験を通してクラブ員として活動力をアップさせ、防火・防災面で地域社会に積極的に貢献して貰いたいと思います。



(4面に続く)



が、隊員は人形を前にして、胸骨圧迫や人工呼吸の訓練を真剣に取り組みました。消火訓練では、消防車のホースを使った放水を体験しました。暑い日差しの中、水しぶきが飛び放水訓練は、とても気持ちよさそうでした。水の入った消火器で火を消す訓練では、



恵那市少年消防隊 将来の防災リーダー育成目指して訓練

恵那市消防本部 予防課 大濱 昌男

恵那市少年消防隊は、平成16年に恵那市と岩村町・山岡町・明智町・串原村・上矢作町の1市5カ町村が市町村合併を経て現在に至っています。市内の小学5・6年生を対象に公募あるいは団員の勧誘活動により、砂場智貴隊長以下112名で活動しています。

本年度は、毎年実施していた訓練内容を、将来の防災リーダーの育成また、興味を持って活動できる内容にと考えて、昨年度に実施したアンケートにより今までの活動の内容を変更、特に「心肺蘇生法を学びたかった」というアンケートに応え、心肺蘇生法を訓練に取り入れられました。初めての取組みで心配してしま

(3面から続き)

恥ずかしくて「火事だ。」と叫べない女子隊員もいて、「みんなに伝えないと燃えちゃうよ」などと女性消防団員から指導を受けていました。その他、規律訓練・地震体験や煙体験、ロープ結索など体験も行いました。訓練に参加した隊員は、「地震体験は思ったよりも揺れがすごかった。」と驚いていました。また他の隊員は、「放水訓練は、後ろに下がるほど水が重くて、手にホースの痕が付くほど力が要りました」などと話していました。

これからも活動をとおして、どんな災害に対しても自分を守る力を身につけます。

西東京消防少年団 高齢者施設を訪問

東京都

西東京消防少年団(団長・小林孝一)

はじめに、もやい結びや節結びなどの結索法を披露したところ、毎月の活動で訓練に励んでいたこともあって、ときばきと結索を作り、元気な「よし!」のかけ声をかけることができました。団員たちのはつらつとした姿に、お年寄りの皆



西東京消防署



ことや、親の世代になった時、高い防災意識を持って家庭・地域を守っていくことができるように、活動を続けて行きたいと考えています。

福岡県

八女市少年消防クラブ 水の事故に備えて

八女消防本部

7月26日、八女市少年消防クラブは夏季研修を実施しました。夏休みを迎えたクラブ員たちは、河川での



水の事故に備えて、水難救助訓練を行いました。今回の研修では、ビニール袋やペットボトル、ズボン、ランドセルなど普段身の回りにあるものを浮き具として代用。またペットボトルにビニール紐を付けて救助器具を作成し、実際に救助したりと、クラブ員たちは「こんなでも浮き輪や人を助ける道具の代わりになるんだ」と驚いた表情で、楽しく学んでいました。

クラブ員たちは、この夏休みを無事故で過ごし楽しい思い出になるよう、水難事故防止を呼びかけていくことを誓いました。

また今回は、昨年の九州北部豪雨で被害の大きかった八女市星野村で研修を実施しました。研修場所に向かうまでの道のりでは、未だ復旧工事の続いている道路や河川を目の当たりにし、改めて昨年の被害の大きさを感じていました。

さんからは感心の拍手をいただきました。その後は、皆で一緒に「故郷」や「幸せなら手をたたこう」を歌ったり、折り紙や風船ゲームで楽しい時間を過ごしました。最初は、緊張のあまり無口になる団員もいましたが、時間が経つにつれ、笑顔があふれるようになり、お年寄りの皆さんもとても楽しんでくれている様子でした。



最後に千代紙を折って作ったカードに、団員が心をこめて書いたメッセージカードをプレゼントし、「いつまでも元気で長生きしてください」と挨拶をしたところ、涙を流して喜んでくださる方もいらっしゃいました。

豊かな街づくりに、役立つ宝くじ。

宝くじの収益金は、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、いろいろなかたちで、みなさまの暮らしに役立てられています。

財団法人 日本宝くじ協会

財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。 日本宝くじ協会ホームページ <http://jla-takarakuji.or.jp/>